

開祖の功德をしるんで行われた木曾御嶽教の覚明社例祭



開祖の功德しのぶ

覚明社例祭と合同慰霊大祭

木曾御嶽教本教総本庁(武井哲也管長)は二十二、二十三日、覚明社例祭を三岳村の御嶽神社里社で、合同慰霊大祭を御岳山三合目の納骨堂天昇殿で、それぞれ行った。

覚明社例祭は、重潔斎もとに戻っているときを必要としていた江戸時代の「御霊」を慰める行事。一九七五(昭和五十)年に天昇殿が完成を庶民に広めた中興開山の覚明導師の遺徳に感謝する祭り。

また合同慰霊祭は「御岳に生まれ、御岳に還る」という御岳信仰の教義に基づき、御岳大神の

伊勢神宮 御神木祭

天武天皇の代(六八五年)に定められたという伊勢神宮の式年遷宮。神宮の建物や神宝、装束を二十年ごとに新調し、御神体を移す制度は、現代まで脈々と受け継がれてきた。千三百年間の長きにわたる遷宮の歴史の中では、それぞれの時代の社会情勢の影響を受け、幾度かの中断や二十年ごとの差が付けられていたといわれる。

世情不安定の社会情勢

室町時代、100年余りの遷宮中断

室町時代、100年余りの遷宮中断。戦乱期の遷宮。社会情勢により遷宮も見

務めて行う神事に参列のび、先祖の霊を慰めし、開山導師の功德をしる。

ヒノキで自作の楽器

アルプホルン作り教室今年も

大桑村で今年もヒノキ教室が二十一日、開講した。参加者たちは、これから八月中旬まで、週末を利用してホルン作りに取り組む。

八日目となる教室で今回は県内外から十二人が参加。

初日は、材料のヒノキ材に定規を使って型取りの工程。参加者たちは、アルプホルンクラブのメンバーたちの指導を受け、節や割れ目などに注意し完成したときの木目も考えに入れながら、慎重に作業を進めていく。

参加。楽器製作の会場となる同村野尻の小瀬木木工所の工場で、自作の楽器を演奏する姿を思い浮かべながら熱心に製作に励んでいる。

飯島町の男性は吹奏楽の仲間にも誘われての参加。



木曾福島町旅館組合の総会

誘客促進へ研究開発

木曾福島町旅館組合が総会 観光地や物産の掘り起こし

木曾福島町旅館組合の通常総会が十九日、三河家で開かれた。自主事業として観光地や物産の掘り起こし、誘客やイベントの研究と開発、スキーや宿泊誘客促進を図るなど今年度の事業を決めた。



ヒノキの材料から少しずつアルプホルンを作り出す参加者たち